

山河の景色

清流が育むほたるの里

標高1,010mの北ヶ森、885mの障子山^{しょうじやま}など、周囲を高い山々に囲まれた砥部町は自然の宝庫。風光明媚な山河とその恵みに満ちています。闇にほのかな光をともして初夏の訪れを告げ、生命の神秘を見せるほたるは、清らかな水と空気に育まれた、自然からの贈り物です。

Town of Fireflies Nurtured by Fresh Streams

Tobe Town with scenic mountains and rivers is full of nature. In early summer, fireflies emitting delicate light in the evening hours show us the mystery of life. Firefly festivals are held throughout the Town.

清らかな水辺にすむ小さな命

うえびとつげ

上尾峠を分水嶺として、砥部地区は砥部川が盆地のほぼ中央を、広田地区では玉谷川が地域を貫流しています。

土壌にしみこんだ雨水が地表に現れて小さな流れとなり、水辺に宿る命を育み、田畑を潤しながら、やがて地域を代表する河川に集められます。

こうした山々からの清流に恵ま

れた砥部町では、毎年5月から6月

にかけて自然の中でほたるを見る
ことができます。小さな光を明滅
させるほたるの姿を求めて、町内外
から多くの人が訪れるため、ほたる
まつりも年々盛んになっています。
外山、川登の坪内家、高市、玉谷
で開催されるまつりは、都市住民
との交流とともに、地域住民をも
つなぐ場としてにぎわいます。



01



02



03



04



05

- 01 広田地区にはゲンジボタルとヘイケボタルが生息する
- 02 ほたるまつりでは、地域住民による夜店のほか、会場によっては演奏会なども行われる
- 03 玉谷にある鍛冶屋谷橋の欄干
- 04 「ほたるの里」をアピール。総津・神の森大橋下の遊歩道にある
- 05 花の中で点滅するほたるの光。ほたるまつりの頃には風情ある光の点滅が、町内の川辺のそこかしこで見られる

四季のいろどり

自然と人の営みから生まれる美

歳月が創るダイナミックな自然
人工施設も観光資源に

雄大な山容で町のシンボルとなっている障子山、地球のダイナミズムに触れることができる衝上断層、岩肌が見事な造形を見せる仙波溪谷など、砥部町にはさまざまな自然の美がみられます。

加えて、柑橘や稲作など農業用水を確保するために人の手で拓かれたダム湖や溜池は、年月を重ねるごとに周辺の自然との調和が進んで、新たな観光資源としてその魅力を発揮しています。

また、「青いダイヤ」と讀えられる小梅をブランド化した七折では、広大な梅園が赤や白の可憐な花々で埋め尽くされ、その光景は桃源郷を思わせます。



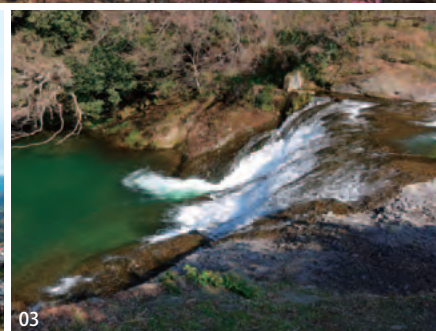
02



05

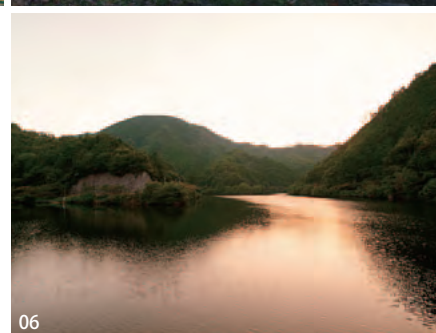


04

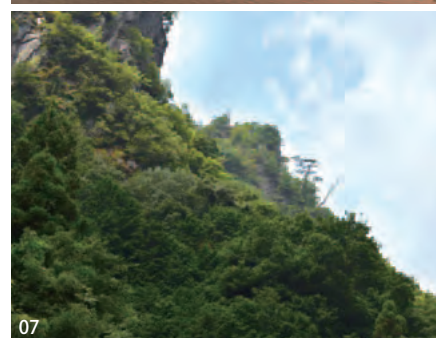


03

- 01 急流が歳月をかけて創り上げた奇岩と、岩ツツジや紅葉など季節のうつろいも鮮やかな仙波渓谷は「伊予十二景」の一つ。神秘的な幽谷から多くの伝説が生まれた
- 02 七折梅園での梅まつりは毎年2月20日～3月10日に開催。約30種、16,000本の紅白さまざまな梅が芳香を放つ
- 03 国の天然記念物「砥部衝^{しょうじょう}上断層」。数千万年前の地殻運動により、古い地層が新しい地層の上に重なった逆断層
- 04 砥部のシンボルの障子山。皿ヶ峰連峰県立自然公園に含まれ、標高885mの山頂からは瀬戸内海の島々が望める
- 05 雄大なコクゾ峰を背にした長曾池は、昭和8年に農業用に築造。オートキャンプもでき、県産の杉を使った東屋が平成25年に完成した
- 06 昭和53年完成の銚子ダムは、貯水量約78万tの樹園地灌漑用ダム。ダム公園内に「砥部町民の森 木楽里^{なぐさ}」がある
- 07 権現山は鎖場のある山岳信仰の山。小型石鎚、広田石鎚とも呼ばれ、旧暦6月1日には「お山開き」が行われる



06



07

Natural Beauty of All Kinds

Tobe Town is full of dynamic natural beauty with grandiose mountains and rifts. In particular, Semba Valley is beautiful throughout the four seasons and Nanaore Plum Park, full of pretty red and white flowers in early spring are worthy of a visit.

山の産業と恵み

緑の保存と農地活用に取り組む



02



03

Industries and Blessings of Mountains

Greenkeepers from a third sector organization actively work to protect and grow forests in Hirota District and preserve the global environment. Artificial cultivation of jinenjo (Japanese yam) has grown to become an indigenous product of Hirota District.



健全な森を育て地球環境の保全に

森林は、再生可能な資源であるだけでなく、土砂の流出を防いで清浄な空気や水を育むなど、さまざまな機能を持っています。しかし、安い外国産材の流入により国産材の価格は低迷を続けており、山主の高齢化もあって、放置林は増える傾向にあります。

こうした森林の維持管理にあたって、いるのが、第三セクターのグリーンキーパー。広田村時代の平成4年に設立されました。

設立当初は手作業が主でしたが、10年ほど前から高性能の林業機械が導入されるようになり、現在はコンピューター操作で伐採から積み込みまで行うことができるなど、省力化が進んでいます。

作業は山主、森林組合、行政などからの依頼で行いますが、適正な間伐によって健全な森林を育て、豊かな緑を未来へつなぐ試みは、今後さらに重要になるでしょう。

研究会から始まった人工栽培

広田地区の特産品である「自然薯」の栽培は平成8年にスタートしました。

広田村時代、主要産物のクリ、タバコ、シイタケなどの価格低下に頭を悩ませて



08

07

- 01 倒木でケガをしないよう、間伐作業は安全第一で行われる
- 02 たっぶりの水と森の栄養で立派に育ったヒノキ
- 03 グリーンキーパーのスタッフはそれぞれが得意分野を持つ。間伐のほか、搬出や林道の開設、林産物加工などを請け負う
- 04 樹勢や曲がりなどを吟味して伐採する木を決める。他の木を傷つけないように伐るのも技術が必要だ
- 05 わずかな時間で、伐採から枝打ち、決まった長さでのカットまで1台でこなす林業機械「ハーベスタ」
- 06 伐採した木は手際よく集荷場に運ばれる
- 07 秋から冬にかけて収穫される自然薯は、箸でつかめるほど粘りがあり、旨味と栄養がたっぷり
- 08～12 毎年12月上旬に道の駅ひろた「峡の館」で開催される「じねんじょまつり」では、自然薯の販売のほか、自然薯を使った料理の試食も好評

いた農業者は、村のあちこちに自生する自然薯に着目。有志で研究会を立ち上げ、本格的な人工栽培が始まりました。

棒状の自然薯を作るために、現在は波板を使った人工栽培が行われていますが、そこに至るまでは試行錯誤の連続でした。

平成10年に生産販売組合を発足させ、翌11年には「第一回じねんじょまつり」を開催するとともに、贈答用品として企業への売り込みも積極的に行うなど、粘り強い取り組みによって知名度はアップ。今や「じねんじょまつり」は冬の風物詩として親しまれ、栄養豊富で味わい豊かな自然薯は広田を代表する農産物に成長、「愛媛のふるさと農産物」にも選定されています。

01

Industry and Blessings of Sato

In the satoyama district of Tobe Town, fruits and nanaore small plums are grown. Fruit growing is another core industry along with Tobe pottery and in recent years, cultivation and production of new breeds has increased. From nanaore small plums, processed goods such as plum syrups and jellies are produced.



04



03



02

- 01 愛媛果試第28号がたわわに実ったハウス。果皮が薄く雨に弱いため、ハウスで栽培される
 02 愛媛果試第28号は甘くジューシーで、ゼリーのような食感が魅力
 03 果樹農家3代目の若手農業者、青木聡さん。水を切って糖度を上げるため、その調整が難しいという
 04 傷をつけないよう、一つひとつ丁寧に収穫。収穫は12月いっぱい行われる

里の産業と恵み

新たな挑戦で産業振興に

みかん栽培

町の主幹産業である果樹 新品種で活性化を図る

果樹栽培は砥部焼と並ぶ砥部地区の主幹産業です。しかし、価格の低迷や農業者の高齢化による担い手不足などにより、砥部町内での生産量は、平成18年と平成25年の比較でハウスみかんは半分に、伊予柑はおよそ3分の2に減少、全体では約1割減と減少傾向にあります。

こうした中、果樹農家が注目するのが、近年開発された愛媛果試第28号、はれひめです。

甘さ、香り、食感に優れた高級果実として贈答用を中心に需要が増えている愛媛果試第28号は、3.5tから220tに、また、オレンジ系の爽やかな香りが特長のはれひめは、同期間の生産量が32.2tから135tと急増しており、栽培農家の期待の高さがうかがえます。

消費者の嗜好やライフスタイルの多様化に応じたより良い商品を提供しようと、農業者は努力を続けています。



七折梅製品

七折小梅は「青いダイヤ」 加工品も人気商品に

100年ほど前から栽培が始まったという七折地区の小梅は、皮や果肉が軟らかく、花のような芳しい香りから「青いダイヤ」と呼ばれ、愛媛県の「『愛』あるブランド産品」に認定されています。組合員23名で構成する「農事組合法人ななれ梅組合」では、有機質主体

- 05 七折の組合事務所に併設された加工場で、週2、3日ほど作業を行う
- 06 ななれ梅組合の皆さん。研修生の渡部祐衣さん(右端)は平成27年春から梅農家の一員に
- 07 煮沸殺菌前に冷やされる「ななれ小梅ゼリー」。すっきりとほどよい甘さが魅力
- 08 「七折小梅(梅干)」「梅シロップ」「七折小梅(スタンドパック)」「梅肉」。この他に「シンふりかけ」を販売。産直市や県産品を扱うショップなど、松山市内および周辺各所で販売している
- 09 七折の小梅をイメージした「ななめちゃん」松山南高等学校砥部分校の生徒がデザインし、平成24年に登場



の土づくりや減農薬栽培に取り組み、安心安全で高品質の梅づくりに努めており、年間およそ100tの生産高を誇ります。また、小梅を使った加工品も続々と誕生、添加物を使わない自然の味で人気を博しています。

砥部の町に春を呼びこむ祭りとして定着した「七折梅まつり」は、約40haの敷地におよそ30種、1万6,000本の梅が咲き誇る七折梅園で開催されます。平成3年にスタートし、平成27年に25周年を迎えました。梅の種とばし大会や加工品の試食販売などが行われ、毎年4万人前後が訪れる人気のイベントになっています。



10 地元の女性グループ「はいからグループ」が運営する流しそうめん

流しそうめん

せせらぎに包まれて 涼を楽しむ流しそうめん

標高440mの権現山の麓で夏季に行われる流しそうめんは、30年ほど前に広田地域の活性化のために始まりました。

地元の大豆、シイタケなどを使った素朴な風味が魅力の出汁^{だし}とともに、爽やかな川音に包まれて味わうそうめんは絶品とあって、毎年、1万人ほどが訪れます。